

JAMCA 大分演奏会別府合同練習



10月8日の「JAMCAおおい」に向けての最初の合同練習が、5月13日～14日の両日、別府市中央公民館で開催され、フルトンからも荒川さんと私（小島）の2名が参加しました。

8日の午前10時前に南宮崎駅で合流した私と荒川さんは、新緑がまぶしい日豊線をにちりん10号で北上、午後1時過ぎには別府に到着しました。そこで荒川さんと別行動で私は駅構内で昼食後、徒歩5分でホテルへ直行。荷物を預けて練習会場の別府市中央公民館へ向かいました。



この会場は昭和3（1928）年に建設された歴史のあるもので、その後改築されたものの昭和の激動期を髣髴とさせる風情がありました。

歩いて5分ほどで会場へ到着、既に大分南蛮コールのメンバーは須賀先生より「典礼聖歌」の練習を受

けていて、終了間際でした。

3時から行われた「心の四季」の練習には「男声合唱団熊本デメーテル」や「滋賀男声合唱団」のメンバーも合流して開催しました。練習は指導を受ける私たちは客席に座って歌い、須賀先生はステージの前に立って指導をされました。ユーモアと情熱溢れる真剣な指導でしたが、須賀先生の指導は「ここまでは許せるが、ここから先は絶対に私の言うことを聞いてもらうぞ」というもので、参加したメンバー全員をその魅力で圧倒していきます。

始めに組曲の最初から最後まで6曲通して歌い、その後1曲ごとに区切って練習をしました。須賀先生のご指導は曲の詩の意味を深く理解して演奏しないと、いい演奏にはならないということを何度も言われました。また歌い方によっては日本語にならないような歌に聞こえてしまうので、この点にも注意するようにとのご指導でした。この合同練習には、男声合唱団熊本デメーテルから12名と、滋賀男声合唱団から8名が、鹿児島楠声会男声合唱団からも1名が参加して、賑わいを見せてくれました。熊本デメーテルには14年前までフルトンに所属していた日高さんもおられて、懐かし

い対面をしました。5時過ぎにはJAMCAの川瀬事務局長も練習会場に到着し、温かい目で練習を見守ってくれていました。

練習後ホテルに戻ると、部屋の冷蔵庫には麻生実行委員長の計らいで缶ビールがびっしりと詰め込まれていて、早速食前酒として頂きました。せっかくだからとホテルの大浴場で温泉に浸かり、その後宴会が催されました。会場のテーブルには大分名物の焼酎や魚などのグルメがずらりと並んでいて、どれから手をつけようかと迷ったくらいです。



最初に須賀先生が挨拶をされ、「宮崎での練習には焼酎川越と地鶏が楽しみだし、熊本での練習では球磨焼酎と馬刺しを楽しみにしている」と発言されました。川瀬事務局長は「是非九州で演奏会を開催したかったところ、南蛮コールからお話があって大変良かったと思っています。全国の合唱団との連携をさらに深めていい演奏会になることを祈っています」とのお話をされました。



参加した団体はそれぞれ挨拶をすることになり、熊本デメーテルは「田原坂」を披露、滋賀男声合唱団は「琵琶湖周航歌」を演奏しました。フルトン男声合唱団は2名でした



指揮者の須賀敬一さん（右）の指導を受けて練習に取り組む参加者



聴かせます 重厚な響き

日本男声合唱協会演奏会

10月の本番へ 初の合同練習

「日本男声合唱協会」大分十七回演奏会 in 大分
（十月八日、大分市・いちごグランシアタ）大分合同新聞共催にむけた最初の合同練習が十三日、別府市中央公民館で始まった。十四日まで。同演奏会は一九七三年に始まり、二年に一度、全国各地で開催。九州で

記事は、練習初日の模様を掲載した「大分合同新聞」（五月十四日付）からの転載記事です。

の開催は今回が初めてでは熊本、宮崎、滋賀、大分市で活動する男声合唱団南蛮コールが日、愛知、千葉各県の五団体本男声合唱協会（JAMC）から地元の主催者（全日本合唱連盟）に指名され、準備を進め、高田三郎作曲の男声合唱曲「心の四季」の練習に取り組み、須賀さんの指導で、合同練習には、県内から同合唱団と中津メロハーモニー、男声合唱団の約五十人、県外でいた。

ので歌うわけにもいかず、来年の40周年記念の演奏会には、多田武彦先生に組曲を委嘱して初演の予定があることをお知らせしました。宴席の最後に全員で「いざ起て戦人」を合唱して1次会を終わりました。

宴会終了後も南蛮コールの幹事さんの部屋では須賀先生や川瀬事務局長、「JAMCAおおい」の麻生実行委員長、同席した滋賀男声合唱団の方々とも親しくお話をし、焼酎飲み放題で遅くまで大変幸せなひと時を過ごしました。

2日目は10時から行われましたが、須賀先生の練習は初日以上に情熱を傾けた指導でした。途中、息抜きと高田三郎の精神を学ぶという意味で、典礼聖歌の中から「いくしきと愛」を取り入れて合唱しました。この曲は斉唱部分を歌うのに歌詞を合わせる訓練になるので、時々採用される歌だとの説明をされました。練習の最後に須賀先生は「大分のメンバーは、今後行われる宮崎や熊本の練習にも極力参加して下さい」と言われました。

市民文化ホール 開館10年記念コンサート 第1回合同練習

宮崎市民文化ホールが今年で開館10周年を迎えるということで、12月3日（日）に宮崎市民文化ホールで記念コンサートが開催されます。その第1回合同練習が、6月17日（土）午後2時から、宮崎市民文化ホール「イベントホール」で、「ふるさとの四季」の編曲者の源田俊一郎先生ご自身による指導で行われました。

最初に宮崎市の子守歌を全曲聞かれて「こんなに形の無いものをふるさと創生資金で作って、長年続いているというのはとても素晴らしいことです。私も町田市（東京都）に住んでいて、町田市の歌を公募したときに母親の詩を私が作曲して採用され賞金を頂きましたが、その後歌われなくなってしまい残念です」というお話でした。

この日は記念コンサートに参加する宮崎市合唱協会所属の団体（フルトン男声合唱団・みやざきはまゆうコーラス・キッズハーモニー・宮崎混声合唱団など）が集まって練習をしましたが、それぞれが男声合唱版や女声合唱版、混声合唱版の楽譜を持ち寄って、それぞれの楽譜で練習をしました。源田俊一郎先生は「ふるさとの四季」を編曲された本人ということもあって「こういう合唱を総合合唱といいます。せつかくピアノ伴奏も同じで演奏できるのだから、こういう合唱もあっていいのではないのでしょうか。今回の演奏会では一部を女声だけとか男声だけや子供たちだけで歌ってみようと思います」と言われて、練習しました。

先生のお話では、この楽譜はいろいろな版があるが現在までに全部で35万部売れているということで、もしかしたら合唱曲としての楽譜では日本ではベートーベンの「第九交響曲」と並ぶほどのトップの売れ行きではないかと思われます。

源田先生のご指導は終始にこやかな笑顔で、9月17日（日）の第2回目の練習と12月の本番が楽しみになってきました。

- * 初版では町田市を神奈川県と記載してありましたが東京都の誤りです。
- * 初版の10万部は35万部の誤り。

「Portrait de Famile」

(家族の肖像画)

多田先生から楽譜届く フルトンメーリングリストより

6月6日 甲斐

多田先生からお願いしていた委嘱作品の楽譜(原譜)が一昨日の日曜日に届きました。

曲名「Portrait de Famile」

(家族の肖像画)

年明けの1月末に多田先生とお会いし、来年の「40周年記念」に向けての企画に委嘱作品をお願いしたい旨のお話しをしてから完成までアツという間の出来事でした。

多田先生に気持ちよくお引き受けいただいた後、地元宮崎に「南邦和さん」という素晴らしい詩人とのご縁を持っていたことにも恵まれ、多田先生が早速南先生の作品の中から「家族の愛情」をテーマにした詩6編を選んでいただき、その後すぐに作曲に取り掛かれて3ヶ月も経たないうちに見事に完成して参りました。

途中、多田先生とは10数回お電話でお話しをしながら詳細の打ち合わせを進めて参りましたが、今回も多田先生には、5年前の「フルトン団歌」をお願いした時と同じように私達の希望を全て受け入れていただきました。

特に今回の委嘱作品については、多田先生に対して「フルトンの技術的なレベルを一考して作曲していただきたい」という何とも失礼な条件を付けてのお願いであったので、自分でお願ひしていながら本当に申し訳ないことであったと反省しています。いや、本当は出来上がってきた楽譜を見て、厚かましいお願いをしていてよかったと胸を撫で下ろしているところなんです。フルトンのメンバーの多くが60歳を越えている現在、みなさんの家族(妻・子供・孫)に対する想いはそれぞれ違うかもしれませんが、何といっても愛情を抜きにしては考えられないと思います。この作品はそんな家族への想いがいっぱい詰まった素晴らしい男声合唱曲になっています。みなさんに楽譜をお配りできるのは、「メロス楽譜」から印刷、製本したものが届いてからになりますので7月末になります。今し

ばらくお待ちください。

気持ちの上では1日も早く譜面を音にして歌ってみたいのが山々ですが、何分にもこれから「合唱祭」「童謡の日」「JAMCA大分」そして「日韓ジョイント」「市文ホール開館10周年記念」と続きます。通常の練習時間に組み込んでいくには、みなさん相当の自習努力が必要になると思います。

6月7日 立山

楽譜が届きましたへの返信

甲斐さん、ほんとにありがとう……。多田先生とこれだけ密なコンタクトをとって、40周年記念演奏会の「目玉」が出来上がったとは……。フルトンさん(大古殿宗三)が聞いたら、墓石が揺らぐほどの喜びではないかと思ひます。私は、古いメンバー(途中、多少空白はありますが……)ですので、心地よいアルコール香りのただよわせながら、フルトンさんの喜ぶ姿が目に見えます。フルトンさんと祝杯を挙げながら喜び合いたいと思ひます。あとは、どのように仕上げるか……。ですが……。???

みんなでがんばりましょう!!!皆さん!!本邦初演の、この多田節を歴史に残る最高の音楽に仕上げましょう……。!!!

須賀先生による 「心の四季」指導

5月13~14日 別府中央公民館

この部分は是非、楽譜を見ながら読み

必要な場合は書き込みもして下さい

はじめに(全員が客席に座って練習、一部の人だけが立って歌いました)

高田先生の初期は器楽曲が多く、合唱曲は単発的な小品はありましたが、本格的な合唱曲は合唱コンクールの課題曲で「風」という男声合唱曲で、評判が良かった。

皆さんに知られているところでは、芸術祭賞を受賞した「私の願い」の後で発表した「水のいのち」が大ヒット、三つめがこの「心の四季」で、今から約40年前の作品になります。最初は混声合唱曲でしたが、山形西高校の依頼で女声合唱に編曲されました。その当時は日本に男声合唱団がなかったわけではないが、ほとんどが学生合唱団で高田三郎も男声合唱曲にするつもりはなかったようです。2002年

に東海メールクワイアーが東京で高田三郎の曲だけで演奏会を開くため男声合唱への編曲を都築会長から依頼をうけ、私が作ったものです。女声合唱で歌うと口先だけでも歌えるので何となくつまらないが、男声が歌うことですごく厚い響きが出る。

1. 風が

最初に楽譜の最後のページにある歌詞を見ましょう。

歌詞の棒線のあとにある「人は見えない時間に吹かれている」、「人は見えない時間にみがかれている」、「私は見えない時間につつまれている」の部分が作詞家は一番訴えたい部分ではないかと思うので、その部分を特に心をこめて歌っていただきたい。三番の「……」には最初の詩には「人は見えない時間に洗われている」という歌詞がついていましたが、合唱曲ではこうなっています。

最初のピアノ伴奏は単なる分散和音に見えるが、合唱のテーマがちゃんと歌われていることに心を留めてください。8小節目の前の「はる」はピアノニッシモで始まるのだから、「H」音を効かせて、母音をあまり出さないようにする。次の「が」はきれいな鼻濁音で、丁寧に歌う。

皆さんがご存知の5月の季節の言葉の中に「春色ようやく衰えて」というのがありますが、詩人はこのことを「弱まってくる」という表現をしている。そういう季節感を頭に入れて歌ったほうが良いと思います。「人は」の「は」は4部音符の長さの8~9割で歌い終わるようにすれば、デミュニエンドが効く。

21小節目の最後にあるメゾフォルテは混声合唱版をそのまま男声にしたのでこうなっているが、男声の場合はトップテナーとバリトンはメゾピアノで始めて、24小節目の「ほほを」でメゾフォルテに持っていくようにしてください。日本語では「ほお」になりますが、ここでは「ほほ」ですね。

「ぶどう」の「ど」は音が高くなっていますが、「ど」が大きくなると「武道」になってしまいます。また、この「ぶどう」は巨峰などの大きな葡萄ではなくて、普通の小さい葡萄にしてください。

バスの「うちーに ゆかーしい」の音が高くなるところは、逃げないでしっかりと歌ってください。

33小節目の「えー」はユニゾンになっていますので、大きくならないように注意してください。次の「人は」

の「は」も松葉がついていますので、8割の長さで押さえる。また、1回目はピアノで2回目はメゾピアノになっていますので、1回目より少し大きめで歌いましょう。トップとバリトンの「時間に 磨かれている」の部分は、セカンドとバスのメロディが透けて見えるようにスタッカート気味で歌うといいでしょう。

「雨が」のところのバスのm——はダブルベースのピッチカートのイメージですが、ハミングだと聞こえないので、皆さんが「これが弦楽のピッチカートだ」という歌詞で歌ってください。みんなが一緒になるといやしくなるので、どう歌うかは皆さんにお任せしますが、リズムには気をつけて。バスの48小節目から49小節目の8部音符にはスタッカートのマークがないのも大事です。しっかりとピアノからクレッシェンドをつけて歌ってください。メロディーパートのテンポがゆれますから、それに合わせて。

58小節目の「ゆきが すべてを」の「ゆ」はこもった声で歌う。「が」は落として、「すべて」は丁寧に歌う。九州の「ガス」にならないように十分注意をして歌うこと。「ふゆが」の「が」も丁寧に、こういう「が」を粗末に歌う人のことを「我を張る」と言いますよ。「よごれ」の「よ」は「iyo」と歌うときれいになります。「汚れを包もうと また雪が降る」の所はノンブレスで歌うこと。

最後の「る」はユニゾンになっていますが、ピアノに戻っているから気をつけて歌うこと。「わたしは」はゆっくりと松葉に気をつけて、そこから徐々にテンポを遅くして最後のPPPまで持っていくように。

2. みずすまし

この歌は一人の私とみずすましとの対話だと思ってください。ご一行(団体)でみずすましを観察しているわけではない。この池は決して大きな湖ではなく、小さな池です。

「いつてきの」は「いーつてきの」です。「すいぎん」の「ぎ」は鼻濁音で丁寧に。「ような」の「よ」は「iyo」で。単語のはじめの「いつてき」「すいぎん」「みずすまし」「やや」「おもく」「みずの」「おもてを」「くぼませて」は、はっきりと丁寧に、後は全てデミュニエンドで。「水銀のような」の「ような」でデミュニエンド、「な」は聞こえない位に。「みずすまし」の「し」はしっかりと伸ばして。

高田三郎の最後の組曲で「マリアの歌」という曲がありますが、それを東京の合唱団が練習しているときに本人は亡くなる直前ですから自分で振るのではなくて横に座って「ああだこうだ」と言って注意するのですが、年も考えずに先生は大きな声で怒り出すのです。そのときの指導で「四分音符があつてその次に休止符があつたら最後まで伸ばすんだ。それが音楽の約束だ。てめえら何十年歌を歌ってるんだ、そんなことも知らんのかあ」、そして指揮者に向かって「おまえはそれを教えてないのか、馬鹿やろう」と言っていました。

7~8小節目のトップのハミングは良く響かせて、そうしないと聞こえないので和音にならない。「暗示的なこと」はデミュニエンドで、少しブレーキを掛けますので指揮をよく見て。ことばのはじめの「あれは」「あんじてきな」「うくだけでなく」「もぐること」はテヌート気味に、たっぷり。「もぐること」はたっぷりテヌートをかけて歌います。

「日常という名の水の表に生きている」の「生きている」は怒りをこめて。バスの「だが」は、はっきりと否定の心を込めて歌う。

27・28小節目のセカンドとバリトンのハミングは2小節のあいだにクレッシェンド、デクレッシェンドを効かせて。31・32小節目、35・36小節目のハミングも同じ。バスの「出会うはず」はリット気味に。「つぶらな きれんな みずすまし」の「つ」「か」「み」はテヌート気味に、その後はデミュニエンドで「な」ははっきりと落として。

46小節目の「何と読むのか」はメゾフォルテのままで、落とさないで歌ってください。「みずすまし」「あなたが」「しぬと」「みずはその」は全て単語の中でデミュニエンド、51小節目の「と」もはっきりと音を落として。「力を」は少しはっきりと、「ゆるめ」はやわらかく。「静かな 静かな」は丁寧に。57小節目の「みなそこへ」の「な」は丁寧にたっぷり、ゆっくりと歌います。59小節目の「やさしさ」は人間的なやさしさを出してやさしく、「や」は長めに丁寧に。女声には出来ない「男のやさしさ」を表現してください。「やさしさ」の「さ」で投げない、やさしい心が離れてしまわないように歌い終わりまで丁寧に。

「それは」の「は」と書いてあるところで「wa」と言ったのでは遅い、「れ」の最後のところで「w」を入れ

る、そうすると音量を落とさずに「わ」と言えるんです。

「みずすましには」の「は」も丁寧に、「わ」とははっきり聞こえてしまうような変な日本語になってしまう。今の若者が使っている「それはあー」「それでえー」と同じレベルになってしまう。61小節目の「い」も8部音符ですよ、長く伸ばさない。この後はゆっくりりゅっくり丁寧に。

5. 愛そして風

この曲はフレーズが変わるたびに「揺れる、ア・テンポ」「揺れる、ア・テンポ」という風に、いつも揺れながら元のテンポに戻るように歌っていきます。

「ざわめいて」の「て」はそっと短めに歌い、バスの「ざわめいてー」の「てー」はやさしく忍び寄るように色気のある声でそっと歌って欲しい。

14小節目の「かぜにふかれて」の「かぜ」は、愛の風であって、暴風ではありませんので、「ぜ」に入るところはもっともってやさしく。「に」の発音は、舌を前にはじくのではなくて、下にそっと落とすように。

テヌート記号は作曲家によって意味合いが違い、三善晃のテヌートは一番弱い意味でのアクセント、私の前の師匠であった磯部俣の場合はリテヌート、高田三郎の場合はノンレガート、ということです。従って「ふかれて」「そよぐ」のところにあるテヌートは本来のテヌートではありませんから、そのつもりで歌ってください。それとここにある「ふかれて」の「れ」と、「そよぐ」の「よ」は軽いアクセントを付けて、レガートに歌います。

バスの19小節目、「かぜが」の「ぜが」はちょっと違ったハーモニーになっていますので、丁寧に歌ってください。「しずまる」の「ずま」も一つずつ切って歌うように。

トップの「ひとだけが」はすぐあとの「過ぎた昔」につながりますので、そこで一服などしないで。最後の「おもいでを」はソレーレシンドが主旋律になりますので、バリトン・トップ・セカンドと変わります。そのことをちゃんと頭に入れて歌いましょう。

6. 雪の日に

4・6・8・10小節目のバリトンは遅れて旋律を歌っていますが、そこで他のパートはしっかり伸ばして歌ってあげて下さい。決してバリトンを孤独の世界で歌わせないように。

それからこの雪は激しく降って欲

しいんですね、降ったり止んだり降ったり止んだりでは困るんです。沖縄男声と演奏したときには「私たちは雪を知りません」と言われたので、それなら台風でいこうと言ったことがあります。ここでは強い雨風が続いている台風のイメージで歌いましょう。

「信じられている雪は」はメゾピアノくらいで入って、12小節目の「せつない」「つー」でクレッシェンドが欲しいのですが、それを出すには2拍目でクレッシェンドをするとそれらしく聞こえます。大きなお金を出すのに、小銭から出していったら最後に1万円札を出すよりは最初から1万円札を見せたほうが金持ちに見えるでしょう。その歌いの方がここでは効果的でしょう。

14小節目のバスで、「などーあろーど」のところはそのままオクターブ上で歌ってもいいです。どうしても出ない人や自信のない人は下でも構いませんが、その方が自然な歌になるでしょう。「どこに」の「こ」で元に戻って歌えればいいと思います。

16小節目のテナーで「ゆきなどあろう」の「ろう」は最初は少し小さめで入って、17小節目からクレッシェンドを開始します。次の「ふりつづける」のところでブレスをしないで、そのまま「ふりつづける」でフォルテッシモに持っていくつもりで。セカンドが旋律なのですが、そここのところはバリトンがセカンドと同じ音でしっかり歌ってくれますので遠慮しないでどんどん歌ってください。こここのところはみんなを圧倒するくらいのつもりで、トランペットを3本用意するくらいのつもりで。

24小節目からのテナーはダブルカルテットくらいで歌ったほうが効果が出るのでそうしますが、今は誰がうたうことになるか分からないのでみんな歌えるようにしておいてください。ここでのピアノ伴奏はダイアモンドダストを表現しています。

44小節の「かくすのだ」はフォルテッシモまでクレッシェンドで、テヌートして。

52小節目の「負えなく」の前でブレスをすると、言葉がつながらなくなってしまうので申し訳ないけれどもここはノンブレスでお願いします。カンニングブレスでもいいからとにかく「手に負えない」という言葉になるように、ノンブレスで行きます。

55小節目からメゾピアノになっていますがこれは強めのメゾフォルテで下さい。私たちのようなアマチュ

アでは5小節をかけてメゾピアノからピアノニッシモになっていくのでは無理ですから強めで入って消えていくように歌いましょう。それからピアノニッシモで消えていくんですけども、これは雪を降り止ませるのではなく夜に入ったという感じ方が良いのではないかと思います。

61小節目から始まるピアノのF音は、シンシンと降る雪を表現している歌舞伎の「雪太鼓」の効果音を表しています。

7. 真昼の星

この真昼の星という歌詞は瑞々しい歌詞です。59ページのフレーズの最後には全部松葉が付いていますので、特に気をつけて。3小節目の「ほしは」の「しは」が「皺だらけの皺」になってしまいます。

高田三郎の曲というのは、ほとんどがアウフタクトになっています。それは何故かということソレム修道院で神父からグレゴリオ聖歌の指導を受けて、日本に帰ってきて国立音大で20年くらいグレゴリオ聖歌の講座を持っており、かなり名物の講義だったらしいです。また当時、東京の初台教会で十何年間かグレゴリオ聖歌のオルガンを弾いていました。このときに先生は「音楽はドイツやイギリスの音楽のような強弱・強弱というものばかりではないんだ」ということに気づいたのです。「アレルヤ」と歌う場合でもアウフタクトで歌いはじめるのが本当です。ブラームスの第1交響曲でも出だしはアウフタクトになっていますが、小節の一拍目が強いわけではなく、その前の音をたつぷりと歌うようになっています。

そして高田三郎は、日本の歌を作曲するにはこのアウフタクトで歌うのが一番いいと感じたのです。日本人はこのアウフタクトの感覚をもともと持っている。日本の民謡もほとんどがアウフタクトになっているでしょう。小節の頭から歌い始める民謡はほとんどありません。明治時代に入ってきた讃美歌に「神のみ子は」というのがあります。ももとの曲はアウフタクトではなかったのですが、当時の日本の訳者は日本語の歌詞をつけるときにそれをアウフタクトで日本に紹介したんです。そういうリズム感が日本人にはあってその感覚をフルに使って作曲しているのが高田三郎なのです。

「ひかえめな そぼくな ほしはまひるの そらの」の「か」「ぼ」「し」

「ひ」「ら」にアクセントをつけて歌ってしまうのは、皆さんが生まれてこの方何十年も強弱・強弱と歌う癖がついているからです。そうではなくて、音楽の詩の持っている言葉をもっと重視して歌ってください。アウフタクトの所を浮き上がるように歌ってください。浮き上がるというのはどういうことかといいますと、ゴム鞠を突くときに一番上に上がっているときがアウフタクトで、一番下に行っているときが強拍のところになるということです。フィギュアスケートの浅田真央ちゃんが4回転ジャンプをするときに、飛び上がるときがアウフタクトで、着氷するときが強拍です。着氷するときはものすごい衝撃があるはずなのですが、それを後方にもものすごいスピードで滑走しながら足首や膝を使って衝撃を吸収していますね。そういう風に歌って欲しいのです。

「ひかえめな そぼくな」の「な」は小学校のときに音楽室の黒板の上などに貼って

あった「あいうえお」の「あ」のときにように大きな口を前に開けないで歌ってください。それから「ひかえめな」の次でブレスをしないように。

「はにかみがちな きれいな」の「な」も決して口を開けずに、こもった感じでそっと歌うように、聞こえなくてもいい位で。「き」は口を横に開けないで、口を尖らせるように。「みせまいとして」の「い」に力が入っているから気をつけて。

「つつもうとして」からは決してクレッシェンドしない。そして「かがやきを」のところにあるピアノの三連音符から先はそれに乗って、ピアノの右手が三連音符を歌っている間ずっとインテンポで行きます。「つつもうとする」の後にある8分休符のために次の「ほ」が遅れがちになる。「る」を小さくまとめてブレスで遅れないようにしてください。「きらめいている」はどうしても大きく歌いたくなるでしょうけど、最後までピアノニッシモですよ。20小節目からはゆっくりとリットしていきます。

最後に全員がステージに上がって、全曲を練習。その後の先生の話。

下手くそ、こりゃあまだまだだな。

詩の意味をよく理解して歌うようにしてください。

私の友人で早稲田グリーの後輩が、バリトン歌手になるつもりでドイツに留学したときの話ですが、ドイツの歌を有名な先生に見てもらうのに最

初は歌詞だけをしっかりと読まされる。次に声に出して朗読する。さらにもう一度朗読をする。4回目は先生が弾くピアノと一緒にリズムを合わせながら朗読し、5回目になって始めて声を出して歌を歌うことができ、レッスンはそれで終わりということでした。詩の意味を深く理解し、自然な発音や言葉の抑揚ができるようにすることで、作曲家・作詞家の意志を自分のものにするとということがとても大事です。

(南蛮コールの麻生さんを通じて、東海メールの鈴木順さんに校正をお願いします)

フルトンメーリングリストより

5月13日 藤崎

国際音楽祭：ダフニスとクロエを聴いて

出演されましたフルトンの7名様 ご苦労様でした。素晴らしい演奏でした。何回もブラボーが出てしまいました。聴衆の中にフルトンのメンバー何人か見かけましたが、同じ思いだと思います。管弦楽でこんなに感激したのは久しぶりです。聴いて感激したのですから、出演の皆さんは何倍もいい思いをされたことでしょう。合唱が管弦楽に溶け込んで、男声は特に二期会助けもあり女声もよかったですよ。若い人の声はいいですね。来年音楽祭で合唱付きがあれば 歌いたい。

5月16日 立山

藤崎さんの投稿への返信

藤崎さん、応援、ありがとうございました。心強かったです。また出演の皆さん方、短い練習期間でしたが、よく頑張ってくださいました。感謝いたします。青木館長・大野副館長からも、ご丁寧な御礼の手紙が来ていましたので、お知らせさせていただきます。デュトワさんもご機嫌だったそうです。デュトワさんは勿論のこと、岩村氏の合唱指導および二期会男声と一緒に歌えたことは、素晴らしい経験になりました。(冥土の土産・・・?)

6月12日 小島

合唱祭で

昨日の県合唱祭は大変お疲れ様でした。最後まで客席で聴いていたら、伊黒さんの姪御さんから声を掛

けられました。「叔父が居なくて寂しく、涙が出ました。でも大変良かったですよ。来年の新曲発表が楽しみですで待ち遠しいですね。」

私は今年の合唱祭もフルトンが一番人気だったと思っています。1曲目の団歌から拍手を頂いたりしたのは、若しかしたらフルトンだけだったのではないのでしょうか？

6月16日 立山

九大コールアカデミーMLに、下記のようなメールがありました。

> 佐竹35期B2です。

引き続き須賀敬一先生の合同練習が、福岡練習(8月19日土)、宮崎練習(9月2日土)、熊本練習(9月3日日)がそれぞれ13:00~17:00に計画されています。「心の四季」の詩の内容とハーモニーにのびながら練習をしています。

> 51B2 竹田津です。JAMCA 大分のための8月19日(土)の合同練習は九州フレッシュメンコアがサポートさせていただきます。パピオビールームで13:00~18:30までの枠を抑えています。その後、須賀先生を囲み飲みニュケーションの予定です。奮ってご参加というか登録をお願いします。もう締め切ったのかなあ???

「その後 須賀先生を囲み 飲みニュケーションの予定です」のところは気になりますが、宮崎練習(9月2日土)では考えなくてよいのでしょうかね??。皆さんのご意見を聞かせていただけると幸甚です。

6月16日 小島

飲みニュケーションの件ですが、先日の大分合同練習の際に須賀先生から「宮崎に行ったら、地鶏と焼酎川越がある」とおっしゃっていました。焼酎川越の方は曾根さんの世話で1升瓶が定価で手に入りましたので、これを皆で一晩で空けなければなりません。現在は私の家の床の間に鎮座して、9月まで飲まれるのを待っているようです。

それで美味しい地鶏があつて、持込がある程度できる場所を探す必要があります。まだ先の話ですが、

どなたかお世話をしていただける方はいらっしゃいませんか? 私自身が、別府では荒川さんと遅くまで須賀先生や川瀬さん、南蛮コールの麻生さんなどとホテルの部屋で2次会をしたものですから、そのお返しもしたいのです。

私は朝の帝王ですが、夜の帝王のooさん(って誰)、よろしく願います。

それと熊本か福岡の練習に参加できる人はいないでしょうかね。大分組は何人か追っかけて須賀先生について行くような勢いでしたので、フルトンからも有志を募りたいと思っています。地元でのノミュケーションの翌朝で、頭が上がりなくなっていたら困りますけどね。

福岡練習 日時 8月19日(土)

13:30~17:00(集合13:00)

場所 福岡市パピオビールーム

熊本練習 日時 9月3日(日)

13:30~17:00(集合13:00)

場所 熊本県立劇場

6月18日 渡辺

サッカーワールドカップのニュースを見ていたらクロアチアの横断幕に「U・B o i」と書いてありました。最近歌っていなかったのが、なつかしい言葉でした。以前、MLでもこの曲について出ていましたが、歌ったことのない方も増えてきましたので再掲します。(本家本元の関西学院グリークラブのホームページです)

<http://www.kg-glee.gr.jp/uboj/index.html>

6月18日 住谷

皆様、こんにちは。ご無沙汰しております。私も見ていましたよ! UB o jはたしか「突撃」だったと思います。オペラのエンディングで、オスマン軍に包囲されたクロアチア市民が城門を開いて打って出て、全滅するというストーリーで、その時クロアチア人が歌ったのがこの歌だったと記憶しています。

今夜は日本が「U B o j」されちゃうかもしれませんね...

私は4月の定演で、パレストリーナの「エレミヤ哀歌」、「花に寄せて」、「DO IT A CAPPELLA」を歌って以来(これが事実上の北村

先生の追悼コンサートになりました)、また少し合唱から遠ざかっています。

6月18日 荒川

源田俊一郎先生の合同合唱指導、お疲れさまでした。町田市にお住まいの安倍さんも4日に先生の指導を受けられ、11日の定演で男声合唱「ふるさとの四季」を歌われたと、事前に聞いておりました。

9月2日、飲みニュケーションのこと。いろいろ意見が飛び交って・・・いないようですね。立山団長・小島さんには、ご配慮ありがとうございます。小島さんといっしょに別府でお世話になった者として、遠方から指導においでいただき方々と歓談の場所を是非、設けたいですね。朝・夜を問わず、帝王さんよろしく願います。幸い入手困難な銘酒「川越」も鎮座ましますそうですから。

※熊本合練行けるとよいですが、二日酔いの恐れありですね。

「U Boy」について

「ニホン」も「U boj」も、ともに譲らず緊迫した好ゲームを展開しましたね。サポーターの胸マークにも「U boj」を確認しました。結果として待望の勝ち点1も獲得しましたし、「ニホン」は思ったよりも善戦したと思います。文字通り互角で引き締まった試合内容は実に面白く、静か〜にTV観戦の90分間でした。

6月19日 梅田

昭和59年1月28日、今から22年前ですね、27歳の私は国際協力の案件で海外出張を命ぜられ、ユーゴスラヴィアに向かいました。地を這う鉄道を愛する私は、それまで外国に行ったことはありませんでした。私が生まれて初めて降り立った外国の地は、ユーゴスラヴィアのベオグラードでした。大使館に挨拶をして翌日協力案件の現地に向かいました。そこはザグレヴ、今のクロアチアの首都なのです。

2月5日まで8泊9日、ザグレヴに滞在しました。1週間近くの遅々としたやりとりの末、ザグレヴ大学公衆衛生学大学院アンドレア・シュタンパー校への機材供与案件の打

ち合わせもあらかたまとまりました。明日はザグレヴを離れるという晩、相手方の中心となる教授の家に招かれました。そこで、ウ・ボイというのはこちらの国でどのように知られているのかと思い、尋ねてみました。(下記のやりとりはたどたどしい英語で行われました。あちらも英語は外国語でクロアチア語が母国語ですからお互いチョボチョボなのです。)

「私は一つだけクロアチアの歌と言われているというのを知っている。この歌をあなた方は知っているか。」「そんなら歌ってみろ」「歌詞も正しいものかどうかかわからない。メロディーも正しいものかどうかかわからない。私はバリトンでついでメロディーを歌ったことがないから」「とにかく歌ってみろ」

「ウ・ボイ、ウ・ボイ、マックストッカ、ブラッチョ、ナクウンチャカコムレモニ」「素晴らしい。なぜおまえはこの歌を知っているのだ」

「日本の男声合唱団で、この歌を歌えないのはモグリだと言われるほど、有名な歌である。」「日本人は皆知っているのか」「いや、それは違う。男声合唱をやっている人間だけだ。(声が小さくなる)ところで、クロアチアの人は皆知っているのか」「当然だ、皆知っている」「どのような歌だ」「目出度い時や、お祝いの時とかに歌うことがある。オペラの幕開けの歌だ」「今も皆歌うのか」「そう言う訳ではないが、皆知っている。」という話題で結構盛り上がりました。

翌年、ザグレヴ大学の人たちが日本に来たときのおみやげに早稲田大学のグリークラブアルバムから「ウ・ボイ」の入っているものを一枚、おみやげにお送りしました。

「第一次世界大戦の後に、極東ロシアから帰るクロアチアの船が、神戸に立ち寄った。その船員たちが関西学院大学の学生たちと宴会を持ったときに“ウ・ボイ”が歌われた。日本の学生たちはこの曲にいたく感動し、この大学の合唱団に伝わった。この曲はほかの合唱団にも愛されて、今や日本の男声合唱団の中では最も知られ、歌われている曲になっている」と説明しました。

註：関学のサイトを見るとチェコの船になっていますが、第一次世界

大戦時はチェコという国はありませんし、チェコは内陸の国なので艦隊があること自体が不思議なのです。

P. S.

私は一途な鉄道少年でしたので、28歳のこの出張の時、初めて飛行機に乗りました。先輩に、飛行機の乗り方、すなわちキップを搭乗券に代えてというところから教わったことを覚えています。初めて乗ったのがフランクフルト行きのビジネスクラスでした。最初に楽を覚えるといけませんね。国際線のエコノミークラスは出張が決まった時から憂鬱になってしまいます。

6月16日 甲斐

「2006ワールドカップ」から「ウ・ボイ談議」へと面白いお話しが次々に飛び込んできています。楽しいですね。私の場合は、立命メンネル時代に歌っていた「ウ・ボイ」の歌詞が、その後何年か経ってから本家である関学グリーの再調査によって改正されたために、その「改正版の歌詞」を覚え直すことが出来ずに今もって「当初の歌詞」でしか歌えないという悲しさです。今はどこに行ってもおそらく「改正版の歌詞」しか通用しないのではないかと思いますので、何時かは大変ではありますが「改正版」に切り替えないといけなんでしょうね。

6月19日 梅田

甲斐さんへ

ウボイの歌詞についてはそうでもないですよ。いろいろな方々というか合唱団の状況を調べられたほうが良いと思います。すべての合唱団が新しい歌詞というか本物の歌詞で歌っているわけではないですよ。

6月20日 甲斐

梅田さんへ

ご意見ありがとうございます。大学の後輩達(0B)は当然のこととは言え随分前から「改正版」を使用しているので、私の感触としては今はどこでも完全に切り替わっているものとばかり思っていました。

10月の「JAMCA大分」の折にでも他団のみなさんに聞いてみましょう。

ホームページ訪問感想

5月29日 滋賀男声：森さん
荒川さま、小島さま、滋賀男声合唱団の森です。といっても覚えていらっしゃらないとおもいますが…。別府での練習に参加した者です。じつはわたしも荒川さまの名刺をいただいたのですが、いささか酔っていただけなのでよく・・・というより全然覚えていません。ごめんなさい。でも「フルトン」の名の由来はキチント覚えています。

帰路、大分空港で須賀先生と同じ飛行機でした。でも、練習はよかった。あとは、大変疲れて2日ほどは時差ボケ状態でした。

9月17日には関西練習です。わたしの住んでいる滋賀県の野洲市で行います。8月9日には大阪の「いずみホール」で典礼聖歌を、そして9月2日には我が滋賀男の定期演奏会をびわ湖ホールで行います。次回、大分での練習と本番でそして懇親会では酔わないうちに会いましょう。

わたしはセカンドテナーです。合唱団の皆様にもよろしくお伝えください。

.....

宮崎日日新聞（5月14日）より 第11回 宮崎国際音楽[3]演奏会 「オーケストラの色彩」

世界トップと一体 合唱団協演、豊かな響きで 「合唱王国」の実力をアピール

5月13日（土）宮崎県立芸術劇場 アイザックスターンホール
モーリス・ラヴェル作曲

バレエ音楽「ダフニスとクロエ」指揮：シャルル・デュトワ
演奏：宮崎国際音楽祭管弦楽団
合唱指導：岩村 力
合唱：宮崎国際音楽祭合唱団（149名）
二期会合唱団・フルトン男声合唱団（7名）ほか

第11回宮崎国際音楽祭の演奏会「オーケストラの色彩」は13日、宮崎市の県立芸術劇場アイザックスターンホールであった。地元の合唱愛好家を中心に結成した同音楽祭合唱団（149人）が、世界のトップアーティストと協演。体全体を使った清らかな歌声と迫力あるオーケストラのハーモニーがホールを包み込み、感動的なステージを繰り広げた。

地元合唱団の参加は昨年に続き2度目。今年は宮崎学園高校と妻高の合唱部、宮崎女子短大、パタタ・ドルチェの県内女声4団体（92人）と、プロの二期会（東京都）メンバーと地元の男声コーラス57人で、



（宮崎日日新聞より転載画像）

合唱団を構成。4月末から合同練習を重ねてきた。

合唱団は同日最後の曲で宮崎初演のバレエ音楽「ダフニスとクロエ」（全曲版）で登場。シャルル・デュトワさんの指揮の下、総勢100人のオーケストラとともに抜群の音量感と豊かな響きを披露。聴衆から大きな拍手と喝采を受けた。

終演後、デュトワさんは「とても素晴らしいステージだった。来年も県民と一緒にやれたらいい」、合唱指導に当たったNHK交響楽団アシスタントコンダクター岩村力さん（46）は「集中して伸びやかに歌うことができた。特に女声のレベルがとても高い」と絶賛。

合唱団に参加した宮崎学園高校合唱部部長の日高悠里さん（17）は「これから始まる合唱コンクールにつながる貴重な経験になった」と興奮気味に話した。

.....

毎日新聞宮崎支局長のコラム だれやみ評論「生演奏かCDか」

*毎日新聞（5月22日）より一部を転載

14日のリハーサルがすべて終わった時、指揮者のシャルル・デュトワがしんみりと言った。「君たちと、この音楽を共有できる私は幸せだ。本当にありがとう。今日は頑張ろう」。楽団員から一斉に拍手が起こった。開演1時間前の光景である。

「ダフニスとクロエ」はオーケストラ単独の演奏が普通で、合唱付きの実演を聴く機会はめったにない。今回は宮崎学園や妻高校の女生徒など150人の混声合唱隊が加わり、目もくらむような音響絵巻を繰り広げた。最後の音が消えて行った時「この音楽は二度と再生できないのか」と少し悲しくなった。

この先死ぬまでの間に、この曲の合唱付きの実演を聴く機会があっても、果たしてこれほどの音と出会えるかどうか。何しろラベルの指揮では世界屈指とされるデュトワ本人が「私がこの曲を振った中で最高の演奏だった」と言うのだから。

合唱！それは心のメッセージ！

第53回 宮崎県合唱祭

宮崎県立芸術劇場アイザックスターンホール 6月11日（日）

今年の梅雨は気温もあまりあがらず比較的快適な気候の中で、「宮崎県合唱祭」が開催されました。

県内各地から今年は32団体が出場、宮崎大学付属中学校や日向学院中等部のお世話で行われました。

フルトン男声合唱団は、全体の27番目に登場して40名が出演しました。

演奏曲

- ・ フルトン男声合唱団団歌
- ・ フェニックス・ハネムーン
- ・ Sing Along

団歌の演奏の後すぐに拍手が自然に頂いて、歌っていた私たちもちょっと驚きました。演奏終了後、客席である人から「フルトンの演奏はいつも楽しいですね。来年の委嘱作品発表会が楽しみです」と声を掛けられました。下の画像は最後に演奏した全体合唱、「大地讃頌」の会場の様子



参加した団体の中で、演奏者が40名を超えていたのは、フルトン男声合唱団、宮崎はまゆうコーラス（48名）、宮崎学園高校合唱団（58名）、シニア混声舞鶴チャーミングコール（43名）の4団体でした。

今年もいろんな団体の演奏を楽しみましたが、中でも中学生や高校生の演奏は楽しそうな演奏で、選曲も工夫されていました。20年程前、フルトンが「お祭りだから」と楽しい曲で魅了してきたのが、少し定着してきたかもしれませんね。

最後に演奏した「宮崎はまゆうコーラス」の「琵琶湖周航歌」は、工夫を凝らした衣装で琵琶湖のさざなみを表現した楽しいものでした。

来年は今年11月に新しい施設が誕生する都城が会場になるということで、楽しみです。